

平成22年度 養護・軽費老人ホーム部会施設長会議 グループワーク議事録

日時：平成23年1月21日午後3時より

場所：ジャスマックプラザホテル

グループでの意見交換（ケアハウス一般グループ）

参加者（五十音順）

- ・うららか ・さつき園 ・新川サニープレイス
- ・つかさ ・藤花 ・ユーアンドアイ

【生活保護者の受け入れについて】

- ・ 各施設で、過去または現在 「生活保護者」の利用がある。今後も、利用者が見込まれる。

【夜間帯の支援について】

- ・ 夜間帯はシルバー人材センター等に委託、日・祝日は職員2名の早遅勤務、シルバー人材センター+職員1名、で支援している施設が多い。
- ・ 他の施設が併設されている施設では、併設の職員と協力している。
- ・ 施設内に助け合い隊があり、職員が間に合わないときには、入居者が救急車に乗って病院まで行き、家族に引渡したりする場合もある。

【職員配置・処遇について】

- ・ 併設施設の職員と職務分掌を明確にするように指導があるが、明確に分けるのが難しい面がある。
- ・ 早番・遅番のシフトをとっていること、4週6休制、4週7休制又は4週8休制採用、祝日勤務は代休付与している施設では職員（4～5名）が全員揃うことが難しい。休日出勤がオーバーした場合は、代休ではなく超過勤務手当を支給している施設もある
- ・ 食事の時間には、職員がいるようにしているが、施設長が階の違う食堂にいると入居者が不審がるので、食堂にはあまり行かないようにしているという施設長もいた。
- ・ 自己努力によって収入を増やすことが難しく、職員の生涯に渡って給料を保証できない。

【地域・その他との交流について】

- ・ 町内会からの見学の受け入れや地域の幼稚園児との交流など、各施設活発に交流を行っている。
- ・ ケアハウス・特養・デイ・身障が合築されている施設では、同じ建物に入っているが、フロアも違うし、以前は交流があったが、ケアハウスの入居者は特養の入居者を見るのが嫌だと止めてしまった。

【利用者の高齢化について】

- ・ ケアハウスでの支援に、限界を向かえているが（一般型ケアハウスでは、要介護1・2くらいまで）、特養では機能がもう少し下がった方が対象といわれ、すぐに受け入れてもらえない。いわゆる「グレーゾーン」の方々が多くなってきているのが課題である。
- ・ 入居者間のトラブル・被害妄想的な訴えが増えてきている。

《全体を通して》

利用者の高齢化等に伴い、いわゆる「グレーゾーン」の利用者を受け入れる施設の整備が急務である。